平成３０年　１１ 月 ２８日

平成３０年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 国本 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。
こうした考えから，平成３０年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。
また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに，そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2　調査期日

平成30年4月17日(火)

3　調査対象

小学校　第６学年（国語Ａ・Ｂ，算数Ａ・Ｂ，理科，児童質問紙）
中学校　第３学年（国語Ａ・Ｂ，数学Ａ・Ｂ，理科，生徒質問紙）

4　本校の参加状況

① 国語Ａ　125　人　　国語Ｂ　125　人
② 数学Ａ　125　人　　数学Ｂ　125　人
③ 理科　125　人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年が限られており,実施教科が国語，数学，理科の３教科のみであることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

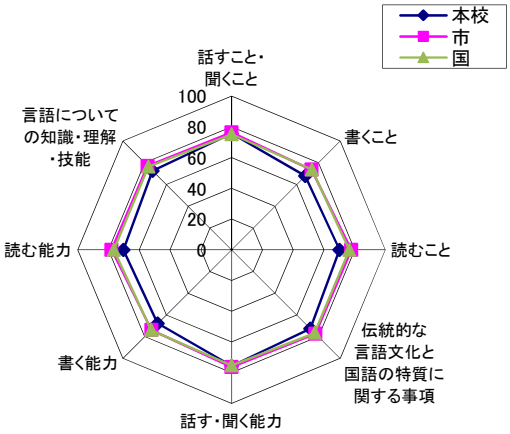
(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立国本中学校第３学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

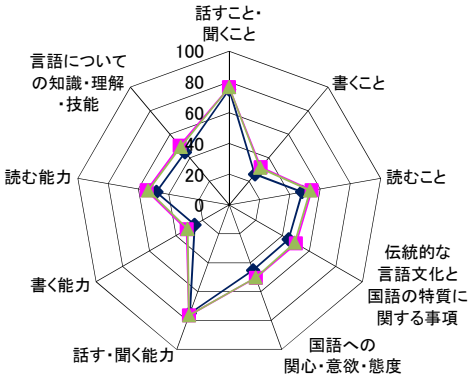
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと･聞くこと	75.6	76.4	75.2
	書くこと	67.9	73.7	73.9
	読むこと	70.3	78.0	76.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	72.6	77.2	76.5
観点	国語への関心･意欲･態度			
	話す･聞く能力	75.6	76.4	75.2
	書く能力	67.9	73.7	73.9
	読む能力	70.3	78.0	76.7
	言語についての知識･理解･技能	72.6	77.2	76.5



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと･聞くこと	75.1	76.5	76.6
	書くこと	26.0	31.9	31.3
	読むこと	48.2	54.5	53.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	44.7	50.2	49.2
観点	国語への関心･意欲･態度	45.3	50.6	50.3
	話す･聞く能力	75.1	76.5	76.6
	書く能力	26.0	31.9	31.3
	読む能力	48.2	54.5	53.5
	言語についての知識･理解･技能	44.7	50.2	49.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

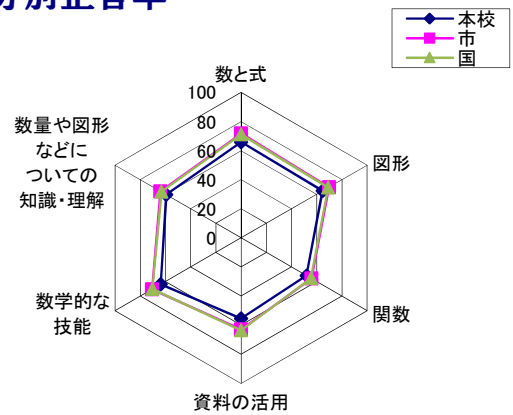
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○話の論理的な構成や展開などに注意して聞いたり、話し合いの話題や方向を捉えて聞いたりする問題、「聞く」部分の正答率が高い。 ●話の展開に注意して必要に応じて質問をしたり、相手の反応を踏まえながら話したりする問題、「話す」部分の正答率が低い。	・聞き取ることは得意だが、話すこと、特に人前で発表することを苦手とする生徒が多い。国語の授業を中心に、他教科・領域でも、発表や発言のしかたを訓練するとともに、聞いている人の興味や関心を高め、分かりやすい話し方を工夫する活動を取り入れていきたい。
書くこと	○書いた文章を読み返し、伝えたい内容が十分表されているか検討する問題の正答率が「書くこと」の他の設問に比べて高い。 ●伝えたい事実や事柄を、相手に分かりやすく的確に伝わるように書く問題の正答率が県・全国に比べてかなり低い。	・短時間で自分の考えをまとめ、文章化できるように、授業の中で書く練習をできるだけ多く取り入れるようにする。新聞の投稿文などを用いて、その優れた文章構成や表現方法を学ばせ、自分の文章表現に役立てる指導を行っていきたい。また、資料を読み解き、自分の考えをもち、目的意識・相手意識の両方を意識した作文が書ける指導を継続して行っていきたい。
読むこと	○グラフから分かることについて説明しているものを捉える問題の正答率が「読むこと」の他の設問に比べて高い。 ●場面の展開や登場人物の描写、言動の意味などを考え、内容を理解する問題の正答率が県・全国に比べてかなり低い。	・全体的に本好きな生徒が多く、朝の読書でもほとんどの生徒が熱心に本を読んでいる。今後も多彩で質の高い文学作品に触れていく機会を設け、筆者の主張とそれを支える根拠（論証）を意識して説明的文章を読むことや、登場人物の言動の意味を考えて文学的文章を読むことができるようにしていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○接続詞の働きについて答える問題の正答率が比較的高い。 ●漢字の「束ねる」「幕」「許す」などの既習漢字の書き取りに課題がある。無解答率も25%～35%と高い。	・「読めるけど書けない」。特に小学校での既習漢字がうろ覚えになっている。1学年下の配当漢字の読み書きの復習を含め、学年配当の漢字を継続的に学習し、確認テストを行うこと、家庭学習における漢字練習を習慣化することで定着を図りたい。

宇都宮市立国本中学校第３学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

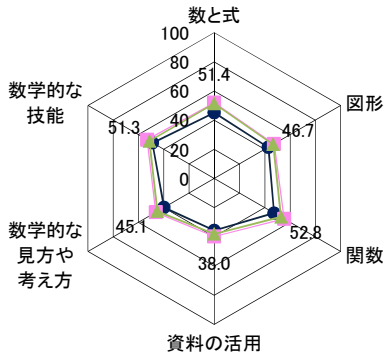
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	65.9	71.7	71.1
	図形	64.6	69.7	69.1
	関数	51.9	55.8	55.5
	資料の活用	55.3	62.9	63.5
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	63.8	70.6	70.4
	数量や図形などについての知識・理解	59.5	64.0	63.3



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	45.1	52.0	51.4
	図形	42.8	47.3	46.7
	関数	47.4	55.4	52.8
	資料の活用	35.6	39.8	38.0
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	39.8	46.3	45.1
	数学的な技能	49.0	53.1	51.3
	数量や図形などについての知識・理解			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

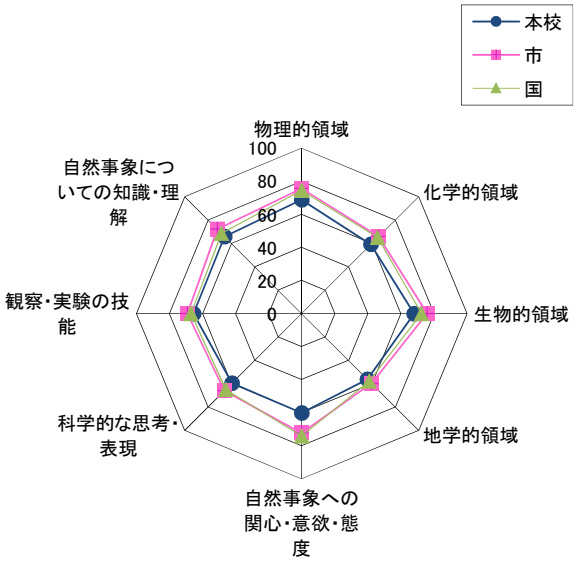
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○平均正答率は自校の他の領域と比較して高い。数量の大小関係を不等式で表す設問の正答率が高い。 ●一元一次方程式が全国平均よりも低い。計算規則の定着に課題がある。 ●式の性質に関わる説明をする設問に対して、論証力に課題がある。	・授業の中で、方程式に関する移項や文字の消去の仕方など、式変形に関わる基本的な事項を、既習事項として再度確認し、反復練習を行う。 ・説明をする力の向上のために、論理の流れを理解するためのパターン練習を取り入れ、書くことに慣れるようにする。
図形	○図形から得た情報をもとに空間における位置関係をとらえたり、新たな情報を読み取ったりすることができている。 ●図形の合同の証明の仕組みの理解に課題が見られる。	・今後、円周角や相似の学習の際に再度証明の流れの確認をする。基本的な図形の性質が身に付くようパターン的な反復練習が必要である。 ・角の大きさや辺の長さを求める問題など、図形の性質に関わる計算問題を確実に解かせ、理解を深めていきたい。
関数	○比例、反比例の性質やグラフの形状について、関数領域の他の問題よりは理解されている。 ●グラフ、表、式との関連については不確かな部分がある。	・形式的な計算はできるが、関数の考え方そのものがイメージできていない。関係式のもつ意味、グラフの意味や見方、表とグラフの関係など根本的な部分の理解を深めさせていきたい。
資料の活用	○確率の意味を理解している。 ●中央値を求める正答率が、資料の活用領域の他の問題に比べ、かなり低い。	・確率の問題では、他の領域と同様に文章を読み取って場面を把握する力に課題があると考えられる。身近な題材を扱うことができる単元なので、興味・関心から高めていきたい。

宇都宮市立国本中学校第３学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物理的領域	68.9	75.7	74.4
	化学的領域	59.2	65.8	65.0
	生物的領域	68.0	75.9	72.5
	地学的領域	56.3	59.8	57.8
観点	自然事象への関心・意欲・態度	60.2	72.3	74.0
	科学的な思考・表現	59.6	66.0	64.9
	観察・実験の技能	65.4	69.1	67.0
	自然事象についての知識・理解	65.9	72.1	68.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物理的領域	○平均正答率は4領域の中で最も高い。その中でも，電気用図記号についての知識がしっかり身についている。 ●オームの法則を使って，抵抗の値を求める問題や，実験の結果を示した表から電流の値を読み取る問題については，無解答率が顕著に高く，正答率も，県，全国から大きく下回っている。	・票の読み取りについては，観察・実験の結果を整理して表やグラフに表し，必要なデータを読み取ったり，規則性を見いだしたりする学習場面を多く設定する。 ・抵抗の値を読み取る問題については，2種類の抵抗器に同じ電圧を加えたときに流れる電流の大きさを比較して，電流の流れにくさを見いだしたり，オームの法則を使って，抵抗の値を求めたりする学習場面を設定する。
化学的領域	○濃度が異なる食塩水のうち，特定の質量パーセント濃度のものを指摘できる問題や，化学変化を表したモデルを検討して改善し，原子や分子のモデルで説明する問題については，正答率が県，全国ともに上回っている。 ●炎の色と金網に付くススの量を調べる実験を計画する際に，「変えない条件」を指摘する問題や，発熱パックに入っているアルミニウムは水の温度変化に関係したことについての新たな課題を見いだす問題は，無解答率が顕著に高く，また，生徒率も，県，全国から大きく下回っている。	・実験の目的に応じた条件を指摘し，知識・技能を活用できるようにする。 ・探究の過程を振り返り，新たな疑問をもち探究を深めることができるようにする。
生物的領域	○神経系の働きについての知識を身に付けているかどうかをみる問題については全国平均を上回っており，概ね良好な結果が見られる。 ●「アサリが出した砂の質量は明るさに関係しているとはいえない」と考察した理由を指摘することができるかどうかをみる問題については，無解答率が顕著に高く，正答率も，県，全国ともに大きく下回っている。	・「変える条件」に伴って変化する「変わってしまう条件」を指摘できるようにするため，「変化すること」と「原因として考えられる要因」を全て挙げ，それらの妥当性を検討し，次にそれらの要因を「変える条件」と「変えない条件」に整理して，実験を計画する学習場面を設定するようにする。
地学的領域	○風向の観測方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用できるかを問う問題や，太平洋高気圧の特徴についての知識を身に付けているかを問う問題については回答率が，県，全国ともに上回っており，無解答率も0である。 ●植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘する問題では，県，全国に比較して正答率は大きく下回り，無解答率も大きく上回っている。	・鉢植えの植物を入れて密閉した透明な容器内の湿度が高くなる「原因として考えられる要因」を全て挙げ，実験の計画を検討して改善するような学習場面を設定するようにする。

宇都宮市立国本中学校 第３学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○全国平均に比べて、本校が優れている質問事項(「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」の合計ポイントでの比較)

「自分には、よいところがあると思いますか」
「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」
「将来の夢や目標を持っていますか」
「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」
「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」
「家で、学校の宿題をしていますか」
「家で、学校の授業の予習・復習をしていますか」
「家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか」
「家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしますか」
「1，2年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか」
「今住んでいる地域の行事に参加していますか」
「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」
「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」
「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」

●全国平均に比べて、課題が見られる質問事項
「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」　←　※　2時間以上、1時間以上の時間帯において、全国平均を下回っている。

【考察】
　アンケートの結果、上記の読書時間に関する項目を除いて、生活や学習におけるほぼ全ての項目で全国平均と同等、あるいは全国平均を上回る肯定的な解答状況であり、予習復習を真面目に行うなど、本校生の明るく素直で真面目な性格が表れた解答であった。
　しかし、例えば「数学の授業の内容はよくわかりますか」という質問に対して、「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」の合計が全国平均を7．4ポイント上回るなど、実際の学力テストの得点状況とかけ離れている項目も少なからず見られ、その点が本校の課題であると思われる。

宇都宮市立国本中学校（第３学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・「生徒を認め生かす授業の工夫～学びに向かう力や人間性をはぐくむ～」 (1)基礎・基本の確実な定着 (2)学習指導の工夫・改善 (3)読書活動の充実 (4)家庭・地域との連携・協力	・話し合いや学び合いを取り入れ，多様な視点から課題について考えさせる協働的な学習 ・「家庭学習」指導を視野に入れた授業づくりと，基礎的・基本的な知識の定着 ・効果的な発問，支持，助言，板書，ノート指導法の工夫と改善 ・全校読書の実施 ・ブックトークの実施 ・図書館だよりの発行 ・「茶摘み」「学校農園」「体育祭」「学校祭」などの家庭・地域から協力を得た学校行事の実施 ・保護者・地域と連携した土曜授業の実施	・話合い活動を取り入れ協働的な学習がなされている。 ・家庭学習については、予習復習をしているポイントが高い。 ・読書に関しては、1日1時間以上読書している生徒が県平均、全国平均を下回っており、更なる読書活動の充実が必要である。 ・ボランティア活動については，地域にあるボランティア団体への参加及び生徒会福祉委員会のアルミ缶回収による車いす寄付活動等により、ポイントが高い。 ・地域とのかかわりについては、多くの項目で高いポイントである。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容

・「数学の授業の内容はよくわかりますか」という質問に対して、「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」の合計が全国平均を7．4ポイント上回るなど、実際の学力テストの得点状況とかけ離れている項目が少なからず見られる。	・「生徒を認め生かす授業の工夫～学びに向かう力や人間性をはぐくむ～」平成28年度から3年計画の2年目に当たる。学びに向かう力や人間性を育むための視点を取り入れることで，生徒が自ら課題を発見し，解決に向けて主体的・協働的に学ぼうとする意識や態度を育む授業の展開を続けていく。	・素直に宿題や予習復習に取り組んではいるが、より高い目標に向かって努力することの意義を理解させる。 ・生徒が自ら課題を発見し，解決に向けて主体的・協働的に学ぼうとする意識や態度を育む授業の展開をより充実させる。 ・話し合いや学び合いを取り入れ，多様な視点から課題について考えさせる協働的な学習の工夫。 ・効果的な発問，指示，助言，板書，ノートの指導法と改善。 ・授業の狙いの明確化と振り返りのあり方，1時間の授業のスケジュールを考えた授業構築の追究。